

平成 25 年 11 月 16 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 平成 25 年度第 9 回

#### 切磋琢磨する仲間を見つける

論語普及会の会報誌を回覧致します。今、論語、特に論語の素読に関して全国的な流れが起きています。安岡正篤先生のお孫さんの安岡定子さんが全国各地を駆け回って、一所懸命論語素読に火をつけておられます。非常に良いことだと思っています。全国論語普及会は論語を全国に広げようという考え方で進めています。前にもお話しましたが、6月に石川忠久顧問からお誘いを受けて全国論語教室交流会に参加しました。関西の方が多かったようですが、全国から論語教室を開いている方々が集まっていました。論語素読の現代版寺子屋サミットという印象を持ちました。

先月、論語普及会の副会長さんに神戸でお会いしました。その時のお礼の手紙も一緒に回覧します。「啐啄同機」の読み方や「切磋琢磨」について、お互い丁々発止のやり取りが出来て大変楽しい時間を過ごしたのですが、副会長さんも楽しかったと手紙に書いて下さいました。

このようなやり取りが出来る相手を見つけることは楽しいものです。私は漢文を教えて戴いた石川梅次郎先生から、先生は先に死ぬのだから自分と同レベルの同輩を出来るだけ見つけておきなさいと教わりました。自分と同じレベルの人を一人見つければ、お互いに切磋琢磨し合って学問を深めることが出来るからです。石川梅次郎先生もご自分の師匠が亡くなって戸惑ったとおっしゃっていましたが、同じくらいの先生方、石川忠久先生や安岡正篤先生、宇野精一先生といった先生方はお互いに切磋琢磨して、学問を深めていったのだなと思います。

そういった先生方の考え方や勉強の仕方を、エキスをギュッと絞って私がここで皆さんにお話しています。つまり縦の学問で営々と続いている学問の仕方を私は石川梅次郎先生に教わり、活学をし、それらを皆さんにお伝えしています。ですから横に広がっている学問だけでなく、あくまでも基本は縦の学問をお伝えしているとお考えください。

先日、京都フォーラムという研究会に行っておきました。京都フォーラムというグループ

で勉強している若い経営者達の経験発表会という印象で、岡本代表幹事が発案したサマーカレッジと同じでした。前半は大学の教授を中心とした錚々たるメンバーが講演をしました。その内のお一人で立教大学名誉教授の横山紘一先生は、猪瀬理事長の専門分野でもある阿頼耶識について話をされました。15分という短い時間ではありましたが、中身の深い興味深い内容でした。阿頼耶識の説明の中で「良心と不良心がある」と言われたのが気になりましたので、講演が終わった後、「阿頼耶識の中では良心・不良心は同一体のもので、分ける必要はないのではありませんか」と申し上げましたところ、「その通りです」というやり取りになって、少しの間お話をさせて戴きました。

他の先生方の講演時間も15分でしたが、大体皆さん時間通りに終わりにしておられました。15分という時間は、上手に言えば、内容の濃い素晴らしいことが言える時間なのだと感じました。次回のサマーカレッジでの発表の参考にして戴くとよろしいと思います。中斎塾フォーラムの前身の悟道会では3分間スピーチをしていました。ストップウォッチを持って、3秒過ぎると失格、3秒前に終わると失格です。しかも、話をする時の声の高さや伝わり方かどうか、話の中身に起承転結があるか、言いたいことがきちんと伝わっているか・・・といった内容を全部打合せしてから3分スピーチをスタートしますので、なかなか合格する人がおりませんでした。与えられた時間を目いっぱい上手に使うということは、かなり大変なことだなと感じています。

### 嘘をつかない・・・の先を考える

政治家は最近の情勢をみるとぐっすり寝られないだろうなと思いますが、心臓に毛が生えているのでしょうか、多分ぐっすり眠るのでしょうか。かつてお母さんから多額のお小遣いを貰っている或る政治家が、子供のままで、世界のメディアで「日本は温暖化対策、諸外国の手本になるようにやります」と宣言しました。振り上げた拳をいつ下ろすのかと聞いていましたら、そっと引っ込めています。今朝の新聞に「温室ガス3.8%減、削減目標は後退」とあります。民主党が掲げた温暖化対策、日本は著しく後退したという事が公表されました。いつどのように公表するかタイミングの問題だと思っていましたが、これは何のことはない、日本が世界に対して嘘をついたということです。日本は国自体で嘘をついているのだなと思います。国連でも、「ここ1年間、嘘をつかなかった国はありますか」と聞いてみたらどうかでしょうか。おそらく各国の代表は下を向いてしまうのではないかと思います。

では、お聞きします。

○ 昨日一日、嘘をつかなかった方

皆さん手が挙がりました。嘘をつかなくなったら、次は中身を分析してみてください。自分が嘘をつく時はどんな時か、どういう時は嘘をついて良いのか、世のため人のために役に立つ時は率先してついてよいのではないか・・・という具合に考えが進むと思います。そうしましたら過去の歴史に学んで、＜こういう時は大きな嘘をつくべきであろう＞という事例にぶつかります。

嘘をつかない事が当たり前になったら、守・破・離ですから、その次にどういう場面で嘘をつけば良いのか、過去の歴史ではどういう場面で嘘をついたのか・・・、嘘をつく方法を考えて戴くとよろしいでしょう。

○ 昨日一日、有難うと言ひ・有難うと言われた方

私は「有難う」と言われてないと思ったら、肩の埃をとってあげて「有難う」と言われるようにしました。来年からは肩の埃をとるのではなく、レイキ（手当て）をしようと思っています。私は氣圧をやるのですが、氣圧は親指から凝っている所に氣を入れます。ただし自分の氣力を相手にあげますから、結構疲れます。レイキは、ただ手を置いているだけです・・・(実験)・・・波長が合えば、温かく感じます。温かく感じれば合格、冷たく感じるようなら、どこかにかなり痛みがあることが分かりますから、これも合格です。夫婦でお互いにやっごらんになるとよろしいでしょう。夫婦円満になります。温かく感じなければ、お互いの氣持ちは離れているかもしれませんね。

○ 昨日一日、良い日だったなと思う方

何度も申しますが、天秤にかけないことです。一つでも良いことがあったら、それを火鉢の種火として、ふうふう吹いて火を起こす。上杉鷹山が種火を吹いて火を起こしたという話は、米沢藩再興のシンボルとして家臣たちを奮い起こしたと云われています。良いなと思うことがあったら、それを氣持ちでふうふう吹いて種火を大きくして、嫌だったことを忘れて良かったなと思って寝るようにしましょう。これは阿頼耶識という考え方の中から取り出しています。

○ 昨日から今の時間まで、健康法を実践した方

今朝、私は初めて山崎幹事の空手の稽古に参加しました。私は今、足の筋肉が落ちているのを戻そうとしていますので、空手の構えが太ももの筋肉を鍛えるのにかなり良い運動になると気づきましたので、また参加したいと思っています。

健康法は出来れば毎日やるのが良いですが、思い出した時にやれば良いのです。何事によらず続けると効果があります。とにかく継続することです。そうするとどこかでハッと氣がついた時にはレベルが上がっています。

○ 昨晚寝る時に、今日以降のことを過去形でイメージして眠れた方

これは色々説明すればするほど分からなくなってくるから、「明日以降のことを過去形でイメージしてください」とだけ申し上げておきます。

## 孔子の訓え

孔子はお弟子さんの性格や行動によって、話を仕方を変えています。

【二】仲弓 仁を問う。子曰く、門を出でては大賓を見るが如くし、民を使うには大祭を承くるが如くし、己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ。邦に在りても怨無く、家に在りても怨無しと。仲弓曰く、雍 不憫なりと雖も、請う斯の語を事せんと。

仲弓は非常に若いです。今で言えば、社会に出たばかりの新卒と考えて下さい。その若者が、世間に認められ脂ののっている孔子に「仁とは何でしょうか」と聞きました。

孔子は若い仲弓にあわせて、かなり細かく丁寧に説明しています。

「自分の家を出たなら色々な人に会うけれども、その時には高貴な方に対するように謹しみ敬って対応しなさい。国民を使う時には、大事なお祭りを実行する時のように身を慎んでやりなさい。自分がやられたら嫌だと思ふことは、人にしてはいけない。自分自身きちんと身を慎んでいれば、国民から恨みを受けることはないし、家庭にあっても恨みを受けることはない。」

仲弓が申し上げた。「私は鈍感ですが、先生のおっしゃったことを是非実行したいと思ひます。」

孔子が若いお弟子さんに向かって、丁寧に教えている。若い仲弓は一所懸命ひたすら教わっている状況を考えればよろしいでしょう。

【三】司馬牛 仁を問う。子曰く、仁者は其の言うこと忖んずる、斯れ之を仁と謂うかと。子曰く、之を為すこと難し。之を言うこと忖んずる無きを得んやと。

司馬牛が孔子に「仁とは何でしょうか」と質問しました。

孔子が「君子は軽々しく口を開かないものだ」と答えました。

司馬牛は自分の兄が孔子を襲ったので、孔子に対して肩身の狭い気持ちを持っています。司馬牛は非常に弁舌が巧みですが、軽はずみな所があるので、孔子はそのあたりを直させようと考えて答えています。孔子は、この時70代です。

司馬牛がまた聞きました。「では、言葉をすらすら発しない人物は、君子とよんでもいい

のですか。」

孔子が答えて、「君子は何ごとも丁寧にきちんと実行していく。何か言われたからといって、本心がグラグラ動いたりしない。言葉というのは怖いものだから、軽々しい言葉を発しない。行動をもって教えるのだよ。」

**【四】** し ば ぎゅう 司馬牛 くんし と 君子を問う。子曰く、し い わ 君子は くんし うれ 憂えず おそ 懼れずと。曰く、い わ 憂えず うれ 懼れざるは、こ 斯れ これ 之を くんし 君子と い 謂うかと。子曰く、し い わ 内に うち 省 かえり みて やま 疚しからず。夫れ そ 何を なに か うれ 憂え なに 何を おそ か 懼れんと。

司馬牛が「君子とはどういう人物でしょうか」と尋ねました。

孔子が答えるには、「君子は出来ている人間だから、禍が来ることを憂えたり、禍が来たからといって恐れもしない。坦々と対応するのだよ。」

司馬牛が「禍を恐れない人物は、君子とよんでよいのでしょうか」と反問しました。

孔子は答えて、「自分で反省して何も疚しい事がなければ、何も心配したり恐れたりしないで良い。」

現代に置きかえて考えましょう。政治家の言行をみて下さい。「あなたは舌が何枚ありますか」と問われて、「二枚あります」とか「三枚です」と答えるような人はいただけません。政治家でなくても、ご自分で考えて、舌を沢山使っているなど思ったら反省して下さい。舌は一枚だと確信が持てれば、胸を張って世の中に伍していけばよいとお考えなさい、と受け取りましょう。

「内に省みて疚しからず。夫れ何をか憂え何をか懼れんと」という部分を安倍首相で考えましょう。安倍首相は自分自身内省して、<何も疚しいことはないのだから、何も恐れず何も憂えず、思う事を思うままに一所懸命やっ払いこう。根回しだけきちんとすればよい>と考えているように見えます。実際とはどうなのかな? と思いつつ今の言動を見えています。

#### 時事評論 一点から悟る一

先週の東京フォーラムで、代表幹事が問題になっている食品偽装問題について聞きたいと挨拶しました。やはり皆さん氣になってならないのだなと感じました。我々はフォーラムで嘘をつかないということ学んでいますが、当事者たちは心が咎めないのだろうかと感じます。ただ、あまりにもやり過ぎていると心が麻痺してしまうから、嘘について当たり

前になってしまう。そうすると、どうしても循環が嘘をついて当たり前の世界の中に入ってしまうから、大きな落とし穴にドカンと落ちてしまうように感じます。

新聞は、政府が世の中に広げたい話題についてお先棒を担いでいる記事・どうしても伝えなければいけないものを一面右のトップに置きます。そして、伝えておかなければ後々「新聞社は何も言わなかったじゃないか」と批判されるような記事を小さい囲み記事で載せます。ですから新聞は一面の右上トップと、小さな囲み記事を意識してご覧になるとよいと申し上げています。あとは自分の感覚で色々な記事を見ていけばよろしい。そして、目についたものは一貫して追いかけることが肝心です。先程申しました温暖化対策に関して、私は疑問点として何時ごろ旗を降ろすのかと思って気にして見ていたので、降ろしたなと感じたわけです。

今朝の新聞で気になったのは、ケネディ新駐日大使が来日しました。「父の遺志を引き継ぐことが出来て嬉しい」と言われましたが、やはり父親の想いは伝わっているのですね。ケネディ家はアメリカではロイヤルファミリーのような存在です。そういう家がアメリカにあってよかったと感じました。

同じくダライラマが来日しました。こちらは囲み記事で小さく出ていました。ダライラマに関しては、中国から叩かれるので日本のメディアも大きく扱いたくないという事が記事から透けて見えます。

囲み記事からも一つ、オバマ大統領が愚痴をこぼしています。「私は完璧ではない。私は自分のやることを精一杯やっているのだから問題はない」というような発言をしました。これは政治家として失格の道を歩み始めたと感じます。一所懸命やっても成果があらなければ困るわけです。会社の社長が「一所懸命頑張りました。結果として赤字でした」では、トップとしては失格です。オバマ大統領が愚痴を言い始めたという事は、相当自信を喪失したなと感じますし、相当叩かれたなと感じます。同時に資金源が枯渇し始めたなという事が記事から透けて見えました。

このように新聞から色々なものが見えます。私はその点の部分を申し上げています。それらの点が突如として融合して悟りに繋がってきます。

他に気になったのは、TPPに関して日本が孤立したという記事です。アメリカを除く10カ国が日本に対して関税撤廃の要求をしてきているとあります。TPPとは一体何なのかと考えれば、自分の国を特別扱いして欲しいという要求を掲げて集まった国々の会議です。そこに日本が遅く参加したのですから、こいつを叩いてしまえ！という状況になっている。何でもそうですが、最初から参加しておく自分の思うような動き方が出来る。後

になって参加すればするほど、割を食うのは世の常です。TPPは今、その段階に入って来たのだと感じます。TPPについては、新聞にもよく出ますしテレビでも報道されますが、その本質は先程申しましたように、特別扱いして欲しいという人達の集まりですから、エゴとエゴのぶつかり合いの会議だと私は思っています。

新聞は尤もらしいことを書いていますが、いったい本質は何なのかを考える。本質・大局・歴史で自分の物差しで見ると、なるほどこういうことかと正体が透けて見えます。肝心なことは、人が言ったから<こうだ>と思うのではなくて、自分の判断基準の中で判断して<こうだ>と言えるようになることが一番です。

### 出雲大社・伊勢神宮の存在

季刊誌「知足」新年号のインタビューで木内顧問に伺いました。木内顧問は、「来年は五感を大事にしたい。見る・聞く・嗅ぐ・味わう・触れる、この五感で感じたい。人が言ったからではなく、自分の五感で感じてどうだというふうにしたい」と言っておられました。

私も五感を大事にしたい、特に一つひとつ掘り下げたいと思っています。例えば花を見て、今までは普通に綺麗だなと見ていたのを、目を皿のようにして、見・観・察でよく掘り下げる。そうすると見え方が変わって来るのではないかと感じています。更に気持ちよく花を見ることが出来れば、察することが出来る。見・・・花が咲いて綺麗だと思う。観・・・この花は栄養が足りているだろうか、何処に向かって花を開いているか、花に命があるとしたら何を考えているだろうか等々、色々なことを観察してみるとハッと気がつくことが出てくる。察・・・何故この花は咲くのだろうか、何故ここに咲いているのだろうか、何故という哲学の部類に入って来ます。花を見る時に哲学を意識していくと、味わいがぐっと深くなります。

というように、見たり・聞いたり・嗅いだり・味わったり・触れたりという五感を少し深めてみたいなと思っています。皆さんも来年の動きの中で、五感の内の何か一つを研ぎ澄ましてみるとよろしいでしょう。来年のキーワードは磨く。その磨いた能力が、多分人様の役に立つでしょうし、日本の役に立ってくるだろうと感じています。その時に弊害になるのは、嘘をついていることです。中斎塾フォーラムでは毎回嘘をつかないと確認していますが、何かに出会うとだんだん嘘をつかなくなってくる気がするからです。

世界の中で、日本人だけがどうも特殊な能力を持っている部分があると感じます。「なにごとのおはしますかはしらねども かたじけなさに涙こぼるる」という西行法師が伊勢神宮で詠んだ歌がありますが、日本人はこういう考え方を持っているから他の国の人と比べてちょっと違うのではないかと思います。

先月、私は出雲大社と伊勢神宮で奉納吟詠を致しました。非常に厳粛な雰囲気の中で吟詠をさせて戴きました。気持ち良かったです。ちなみに出雲では、10月は神無月ではなく「神在月」と呼びます。それは、神話で八百万の神様たちが出雲に集まって様々な神議をするからです。集まった神様たちが縁結びの相談もするので、出雲大社は縁結びの神様といわれています。出雲大社には神様たちが泊まる19社の御社もあって、今風にいえばビジネスホテルでしょうか、実に今風の考え方・今風の建物だと感じました。

また、出雲大社は大国主命を祀っていますが、大国主命は多妻ですから、周りのお社にはお母さんや奥さんたちが祀られていて、母系制そのままという感じがしました。縄文時代も母系集団で、母親を中心とした小さな集合体（竪穴式住居）が至る所に出来て、それが約一万年続いたといわれています。ですから出雲大社は縄文時代の様式をそのまま現代に伝えていると感じました。尚且つ、今我々の生活を調べると、一万年以上前の縄文時代と基本的な部分は変わっていないと思います。

日本人は他の国々の人々と比べてかなり変わったポジションにいる人々で、これからの世紀は心の時代とか魂の時代と言いますが、その先頭をきって走るべき使命を負わされている国家・国民なのではないかという気がします。それを顕すものは今の皇室・天皇陛下という存在であり、出雲大社であり伊勢神宮であると感じました。